

豪華プレゼントが300人に当たる
創刊30周年記念 大プレゼント!



AUTO AMPER

オートキャンパー

for ENJOY CAMPING CAR LIFE

創刊3年6月15日発行(毎月15日発行) 平成3年8月20日第二種郵便物認可 第31巻 第7号 価格370円

7 2021
月号

毎月15日発売

国産キャンピングカーの進化とロングセラーの真価に迫る

本誌が見てきた キャンピングカーの

30年

30
years
of camping car
1991-2021



トヨタキャンピングカー 岩田一成

JキャンビンHN

詳細解説

知識
読み物

リチウムイオン バッテリー入門!



業界に旋風を巻き起こした大量生産システム

FIVE STAR

ファイブスター | Since 1991 |

●レクビィ

母体はロータスナゴヤ。レクビィが設立したころ、業界では初となるカタログモデルがファイブスターにより確立。

現行
モデル



2021~



●モデル名は継承しているが、リーズナブルでコンフォータブルだった初代と比較すると、もはや高級車レベルの別格ブランドに育った

ファイブスター セプト Superior

価格：681万1000円~

◎レクビィ ☎0561-41-3613

- 乗車定員 7人
- 就寝人数 3人+子供2人
- 登録ナンバー 白8

ベース車両：ハイエーススーパーロングワイドボディハイルーファンパー専用車
全長×全幅×全高：5380×1880×2400mm



●最後部シャワールームは大型FRPパーツを組み付けるので、かなり腕の立つ職人作業となり、レクビィの本領発揮度がよくわかる部分

1991



それまでほぼワンオフ製作だったキャンピングカー市場に、固定規格のカタログモデルとして登場したのがファイブスター。それは両面1枚刷りではあったが、カラーでわかりやすくユーザー層を拡大するための常識破りな手法だった。パッケージもシンプルで使いやすく、モールやヒンジも当時最新鋭のもの。家具の作りは大量発注による完全なオリジナル規格もの、組み付け工程も考慮されているので製造時間も短縮でき納車も早かった。はたから見ていても、その出荷台数の多さからそろそろライン生産に移るのではないだろうかと思えたほどだった。その後はモデルも増えたが、ファイブスターに関しては装備や質感を時代のニーズに合わせて順当に進化し続けている。それは日本のモータリゼーションをそのままを反映。いって見れば、登場時のトヨタ・クラウンが現代のカローラより小さくチープに見える感じに似ている。

本誌が見てきた
キャンピングカーの30年

30 years of campingcar

社長の思いの詰まった室内デザイン

FUTURE

フューチャー | Since 1989 |

●ピークル

現行
モデル



2021~



●アーチ部分の間仕切りはリヤスピーカーとテレビが埋め込まれ、ブラウン管から液晶になった時代変化で、厚みそのものは減少した

フューチャー

価格：511万1700円~

◎ピークル ☎048-927-5678

- 乗車定員 9人
- 就寝人数 3人+子供2人
- 登録ナンバー 白8

ベース車両：ハイエーススーパーロングワイドボディハイルーファンパー専用車
全長×全幅×全高：5380×1880×2285mm



●通常最後部は大きなラゲジスペースとして使うだろうが、2段ベッドを設置することもでき、ファミリーでも就寝できるスペースを作り出している

1987



1991



フューチャーはピークルの濱本繁美社長の思いというかキャンピングカー哲学を表現したもので、その印象が濃いモデル。登場当時のレイアウトはオーソドックスなものだったが、間仕切りに見えるアーチ型の造形物を置き、2ルーム的な雰囲気を持たせたアイデンティティは、現在も継承。そして作りにおいてとても注意しているのが、走行中の家具から発するきしみ音と車内の空気の流れ。開発当時から徹底的に空気の流れを検証して、小さな排出部分にどうしても汚れがたまってしまっても対策した。そして、時代が進みより軽くより作業しやすい素材や技法が登場してくるなかで、銘木の表面素材を使った天然木化粧合板の使用を継続。それは、過酷な車内環境下でも長期使用にわたって曲がりや狂いが生じないという理由からだ。そういった家具調度品を支える土台のフロア加工も、例を見ないレベルで丁寧な手作業で施工されているのだ。

国産キャブコンの先駆的モデル

MAMBOW

マンボウ | Since 1989 |

●ロータスRV販売

1ボックスや乗用車へ架装するのではなく、いち早くキャンピングシェルを製造しトラックシャーシに載せたエポックメーカー。

1989



●欧米では当たり前のコーチビルドの手法を国産トラックで実現。バンコンでは無理だった立って歩ける圧倒的スペースを確保した

1991



●後部エントランスも装備し、独自の使いやすさを追求。このころ、車体を大きくしすぎない現在までの路線が確定したといっている



マンボウアンバーサリー
ファイナルエディション

2006



●マツダ製キャンピングカー専用シャーシのボンゴトラックをベース車両を独自に手に入れ、それまでとは別次元の走りや安定性を獲得した



30年以上基本コンセプトに忠実なモデルとして存在してきたマンボウも、ベース車両の製造中止に伴い残っているベース車両だけの供給となってしまったが、おそらく今後同様のモデルは出にくい。長期にわたって大事にしていたのはドライバビリティという部分。普通にキャンピングカーの快適性だけ捉えれば、もっとキャンピングシェル部分を大きくできたはずなのだが、それではクルマとしての基本部分である走る、曲がる、止まるがスポイルされてしまう。ところがマンボウは、恐らくその最大のアピールポイントを登場時から現在に至るまで、他モデルと差別化のためにうたったことが、筆者の記憶では一度もない。奥ゆかしいというか何というか……。自ら課した大きさという“かせ”のなかで、最大限のユーティリティをつねに実現し、同時に重量配分も念頭に設計されていた事実は見逃せない。

30 years of campingcar

1991~2021

1991年にドマーニとして創刊してから30年。その間ずっと売れ続けるキャンピングカーがある。黎明期から見てきた本誌だから知る、国産キャンピングカーの真価に迫り、技術の進化を追いたい。



国産キャンピングカーの進化とロングセラーの真価に迫る

本誌が見てきた
キャンピングカーの

30年

日 本初のキャンピングカー専門の月刊誌「ドマーニ」が1991年に創刊され、1993年に「オートキャンパー」と名称を変え、今日までの30年間、国内外のキャンピングカー事情やニューモデル、キャンピングカーライフを提案してきた。ドマーニが創刊された当時、欧米に比べると、日本はキャンピングカー製造技術も、ライフスタイルも遅れていたが、最近では日本独自のキャンピングカー文化が広まってきている。

日本では、1970年代からハイエースやキャラバンなどをベースに、ドレスアップを目的としたエアロパーツなどを装着し、派手な塗装を施し、内装はソファやテーブル、シャンデリアなどを取り付けたバニング、といわれるクルマが存在した。

1980年代後半には、キッチンやベッドを備えたキャンピングカーが市販化されるようになった。それ以前にも、名もなき改造車としてのキャンピングカーもあったが、1989年にはすでにキャブコンのマンボウやパンコンのコンポーターが発売された。1990年代初頭には、ファイブスターやフューチャー、ランドホームなど、今も人気の定番モデルが誕生している。

1994年にはキャンピングカービルダーやショップから成る「日本RV協会」が設立され、キャンピングカーの製造や販売だけでなく、より多くの人に知ってもらうためにキャンピングカーショーを開催したり、クルマ旅や車中泊を楽しむための基礎の整備にも注力してきた。

全国に180カ所以上あるRVパークをはじめ、湯YORUパークやくるま旅パークなど、オートキャンプ場とは一線を画す車中泊施設も、日本の独自の事情に合わせたもので、キャンピングカーライフの発展が、より使いやすいモデル製作へのヒントにもつながる。

この企画では、国産キャンピングカーの歴史、使い手に支持されるロングセラーの真価、より使いやすく進化させる技術などをほんの一部だが振り返っている。30年もの進化は、やはりひと言では語り尽くせない。今回は2000年までのキャンピングカー黎明期を取り上げている。次号では21世紀の画期的かつ先進的な展開を紹介したい。

そして、これからも10年・20年と、日本のキャンピングカー文化が、活性化するように機力でも支え続けたい。

11 LT.キャンパーズ
カムロード専用アルミホイール
CAM-LT1台分(4本) 1人



モニター

キャンピングカー業界初のカムロード専用のアルミホイール「CAM-LT」は、キャンピングカーの重量に耐えうる強度設計はもちろん、センターボア径を純正ホイールと同軸にすることでハブボルトにかかる負担を低減、ハブボルトの交換を助ぐ。また、適正なリム幅によりワイドタイヤとの相性は抜群(推奨タイヤ幅215mm)。●ホイールサイズ:15×6.5J 6H-139.7 インセット:全+25 ※取り付けは長野県諏訪市にあるLT.キャンパーズで行なう(工賃別)ため、店舗に行ける人に限ります。©LT.キャンパーズ www.ltcampers.jp

12 エートゥゼット
mont-bell × AtoZ
オリジナルステンレスサーモマグ 5人

さびにくい18-8ステンレスを使用し、2重構造になっており、保温・保冷効果を持たせたモンベルのステンレスサーモマグ310に、AtoZのロゴをプリントしたコラボ商品。アウトドアや車中泊のお供に。©エートゥゼット https://atozcamp.com



13 カトモーター
ガスアダプター キャンピングカーガス 1人



キャンピングカーのガスレンジに、カセットガスを2本接続できるガス供給器。既存のプロパンタイプとワンタッチで交換が可能。カセットガスボンベは入手しやすい250gの市販品が利用できる。●使用時サイズ:幅258×横218×高さ106mm 動力カトモーター www.katamotor.co.jp

ピークル
ロゴ入りLEDライト

今年創業40周年を迎える老舗バンコンビルダーのピークル。フューチャーやクッチェッタなど人気ロングセラーモデルも多く、使いやすさを追求し、オーナーからの信頼も厚い。キャンプや車中泊時に役立つVehicleロゴ入りLEDライト。©ピークル https://vehicleweb.co.jp



4 グレー 5人

5 青 5人

青島文化教材社
THE☆SNAPKIT スズキ ジムニー

プラモデルやトイホビーの製造・販売を手がけるアオシマから、だれにでも簡単に製作できるプラモデル「ザ☆スナップキット」のジムニーをプレゼント。1/32スケール。はめ込み式を採用することで塗装が不要。ボディ色はプラスチック材料の着色で再現することにより塗装不要。ツヤツヤボディもカッコイイ。©アオシマ www.aoshima-tk.co.jp



6 ピュアホワイトパール 1人



7 シフォンアイボリーメタリック 1人

8 プリスクブルーメタリック 1人



9 キネティックイエロー 1人

10 ジャングルグリーン 1人

応募要項

賞品に「モニター」とあるものは、当選した場合使用レポートをお送りいただけます。また、賞品によっては、当選者情報を提供先などに連絡する場合がございます。ご了承ください。p.134の応募専用ハガキを切り取り、クイズに答えて、各欄に必要な事項をご記入してご応募ください。切手は不要です。ホームページからも応募できますが、1人1回となります。

締め切り '21年7月15日消印有効

※発送は発送をもってかえさせていただきます。
■個人情報取り扱いについては、p.134をご覧ください

クイズ
オートキャンパー
(当時の雑誌名はドマーニ)が
創刊された年は?
19〇〇年

2 キュービー
キュービー商品 キャンプおすすめ
詰め合わせ3品セット 5人

アウトドアにぴったりなキュービー商品が3品セットに!「キュービー 焼酎マヨネーズ」は、スモークピネーグを使い、素材にのっただけで焼酎の香りが楽しめる大人の味。「キュービー イタリアンパスタソース」は、パスタやサラダなど、幅広いメニューに対応する香り豊かなソースだ。蒸し煮料理をするなら「キュービー 3分クッキング 蒸し煮用ソース レモン&塩麹」。フライパンにソースと食材を入れ、フタをして10分蒸すだけで、おいしいおかずが完成する。 ©キュービー www.kewpie.co.jp



3 フェイス
VWT 1バス クーラーボックス 1人

フォルクスワーゲンのT1といえば、旧車キャンピングカーベースとしても人気のモデル。そのT1バスを模した愛らしいクーラーボックスをプレゼント。車体の下部にリバーハンドルが収納されており、移動したいときはそのハンドルを引っ張って移動が可能。クーラーボックス内には水抜き栓が付いており、排水や掃除も簡単。●容量:約26L サイズ:奥行84×幅39×高さ45cm 重量:約13kg ©フェイス http://camshop.jp



モニター

豪華プレゼントが300人に当たる

2号連続!

オートキャンパー創刊30周年記念
大プレゼント!

AUTO CAMPER
30th ANNIVERSARY

1991年にスタートし、先月号で創刊30周年という節目を迎えたAUTO CAMPER。大好評だった前号に引き続き、大プレゼント企画の第2弾を実施いたします。読者のみなさま、これからもAUTO CAMPERをどうぞよろしくお願いいたします!



モニター

1 トイファクトリー
ダホン ルート (コバルトブルー) 1人

世界最大級のフォールディングバイクブランドであるダホンのルートは、エントリーモデルながら上位モデルに使用される同ブランドのテクノロジーが詰め込まれた1台。手のひらにフィットするグリップや、濡れた路面で水の跳ね上がりを防ぐマッドガードが快適な走行をサポートしてくれる。ハンドルは約10cmの高さ調整が可能。キャンピングカーに積んで、旅先でのサイクリングを楽しみたい。●折りたたみ時サイズ:高さ64×奥行34×幅39cm 重量:12.3kg ©トイファクトリー https://toy-factory.jp

